

笑う門には 福来たる



笑う門には
福来たる

(株)日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911

さよに
かなへ
かろしゆえ
木が光る
草が光る
石が光る
重信川の
水が光る

貞氏

次回特別展のお知らせ
開館10周年記念特別展

砥部の砥石で己を磨け
~97年の生涯を生き切った坂村真民の生き方~

2022年3月5日(土)~6月12日(日)予定 [休館日]月曜日
※祝日の場合は翌日

坂村真民記念館(砥部町)

灯台下暗し

明朗・愛和・喜勵

「灯台下暗し」という諺があります。灯台とは燭台のことです。燭台は周囲を明るく照らしますが、その直下は影になつて暗いことから、「人は身近なことは気がつかない」ことを意味します。

職場の同僚など、身近な人のことをよく知つてゐるつもりが、実はわかつていなかつたという経験はあるものです。「あのは、きっとこうに違ひない」と決めつけると、相手のことをわかつていうような感覚に陥ります。それにより、自分に都合のよいように想像してしまい、相手を誤解して、対人関係に問題が生じることがあるでしょう。

こうしたことを防ぐには、思い込みを捨てることです。そのためには、先入観にとらわれず、ありのままの相手を見ることが大切です。

表情や行動などから相手を知ろうとするうちに、今まで知らなかつた考え方や仕事への取り組み方が見えてくるでしょう。その上で、自分は相手とどのように付きあえばよいのかも気づくはずです。

◆ 思い込みを捨てましょう

「職場の教養」より

石橋記念公園 (鹿児島県鹿児島市)

鹿児島市を流れる甲突川(こうつきがわ)にはかつて五つの石橋が架けられ、「甲突川五石橋」として親しまれていた。建造を指導したのは、肥後の名石工・岩永三五郎。

なかでも西田橋は鹿児島城下の表玄関として豪華に造られ、150年以上にわたって住民に愛されてきた。だが1993(平成5)年の豪雨でうち2つが流失。現地保存を求める声もあったが残る3つは移設され、石橋の架橋技術や当時の様子を伝える

「石橋記念館」とともに記念公園として整備された。



日本再発見!

保親さんの人生万感

ダビンチの最後の晩餐色あせし
キリストの目に悲しみ深く

息をのむ大聖堂の天井絵
ミケランジェロの最後の審判

当たり前のことに磨きをかける

あいさつ、返事、後始末…。日々習慣的に行っていることは見直す機会が少ない。まず一つ「これは」と決めて改善改革に努めたい。



光田 秀之